

さんぽみち



発行 わがまち大田鵜の木地区推進委員会

連絡先
鵜の木特別出張所
3750-4241

～夏休み子ども会の思い出～

夏休み子ども会の思い出

前領町小学校PTA会長 桜井 光政

夏休みも後半になると友達の顔が懐かしくなるのだろうか。夏休み子ども会は子どもたちに人気の行事だ。前年度は花火大会が大盛況だった。自然に平成十年度の準備にも力が入る。会場は例年どおり学校をお借りするとしても、耐震工事の真っ最中の学校で子どもたちの安全をどう確保するか、どんな企画を準備して、どのように運営していくかについて何度も熱心な議論が繰り返された。

目玉はもちろん花火だ。前年度よりもたくさん花火を用意した。仕掛花火も買い込んで、備えは万全だ。そして迎えた子ども会当日。ところがあいにくの雨。それもどしゃ降り。花火はできなかった。青少対の方々にお願いしていた豚汁は、野外での調理を予定していたので、調理場所の確保ができず、土壇場でお断りすることになり、大変な迷惑をおかけした。

こんな雨では参加者は激減するだろうというのが大方の見通しだった。かく言う私も、恐らくしよげ返っているであろう本校校外委員会の面々を励ますつもりで学校に出かけた。ところが学校について我が目を疑った。子どもたちが続々と詰めかけていたのだ。何と二百人もの人たちが来てくれたのだという。すべての企画を校舎内で行ったので文字どおり押すな押すなの大盛況だ。昨年よりもたくさん用意したはずの花火も、いざ持ち帰ってからおうとしたら1人当たりに行き渡った本数は昨年よりもずっと少なかった。

目が回るような忙しさだったがたくさん子どもたちに喜んでもらえたことが何よりうれしい。青少対のみならず、校外委員のみなさん、本当にご苦労様でした。

夏休み子どもまつりの思い出

前千鳥小学校PTA会長 小堀 進

七月十八日午後三時、千鳥小学校にて夏休み子どもまつりが開催されました。昨年度は、子どもたちに少しでもお祭り気分を味わわせてあげたいということで、手作り、ゲームコーナーの他、青少対の方々、千鳥ファミリィ2・6会のお父さん方のお力を借り、焼きそば、かき氷にも挑戦しました。みなさん、お忙しい中を何度も打ち合わせをさせていただき当日を迎えました。お天気にも恵まれ、終業式の後ということもあり、子どもたちの出足もなかなか好調で、ほっとしました。

炎天下、校庭に張られたテントの中でお父さんたちの焼きそば作りが始まりました。約五百人分の焼きそばを作るのは大変な力仕事ですが、ニコニコ嬉しそうに待っている子どもたちを見ると、弱音をはくわけにもいきません。汗だくになりながらも、腕に力が入ります。子どもたちだけでなく、大人の方にも食べていただくことができ、冷たいかき氷とともに大好評でした。

一方、体育館では、校外委員のお母さん方が中心となって企画された、手作りコーナー(紙コップで作るけん玉、色紙で作るクルクルフラワー、紙皿で作るなんでもポケット)、ゲームコーナー(ジャンケンゲーム、ペットボトルボウリング)があり、ここも大盛況でした。子どもも大人もこちよい汗を流し、五時に閉会となりました。子どもたちにとって楽しい夏休みの幕開けとなったひとときだったと思います。

最後に、お忙しい中をご協力くださいました青少対、千鳥ファミリィ2・6会PTA関係の皆様、厚くお礼申し上げます。

鵜の木地区 七・八月の行事

鵜の木西町会

富士見通り 朝市

七月二十五日(日)

鵜の木二丁目町会

子ども映画会 鵜の木二丁目会館

七月十日(土) 午前十時

第十一回全国鵜の木まつり

七月二十四日(土)・二十五日(日)

鵜の木三丁目町会

盆踊り

七月二十七日(火)～二十九日(木)

鶴共栄会納涼大会

八月七日(土)

千鳥南町会

盆踊り・おまつり

八月二十一日(土)・二十二日(日)

千鳥北町会

おまつり

八月二十八日(土)・二十九日(日)

南久が原一丁目町会

ラジオ体操

七月二十日(火)～二十六日(月)

防災訓練

おまつり

八月二十一日(土)・二十二日(日)



お知らせ

アーダー
クラブ
大募集!
ジュニア

鵜の木地区ジュニアリーダークラブは、鵜の木地区の中学生を中心に、クリエイション・スポーツ・ボランティアなどの活動を行うことを目的に、様々な場所で活動しています。

現在、新しいメンバーを募集しています。入りたい方、興味のある方、詳しい内容を知りたい方は鵜の木特別出張所に連絡してください。お待ちしています。

プ集! 実施日 九月十九日
ヤ募 対象 小学生
イ加 詳しくは鵜の木特別出張所
デ参 地域振興係まで

わがまち あの人の人

町会長時代を回想して 鵜の木二丁目 天明 京子

平成六年四月の定期総会で、前会長の残任期間までの一年間、私が会長に選出されました。
私には大変名誉なことと存じましたが、反面、職責の重さに身の引き締まる思いでした。
更に、急にお引き受けることになったので、なれぬこととして正直申し上げて戸惑いもいたしましたが、役員の皆様の協力添えを頂き、一年間、何とか無事に過ぎすことができました。
そして平成七年五月の総会で再選（二年間）されました。在任中「阪神・淡路大震災義援金募金」・「会員名簿の作成」・「かん・びんの回収開始」・「多摩川河川敷夜間総合防災訓練」・「国勢調査の実施」などが特に記憶に残る事項と申せましょう。

苦勞話と申してはなんですが、永年勤められた管理人さんが辞職された後、後任が決まらないうちに日ごと困り果ててしまいました。その間、役員が交代で町会に詰めていただきました。そして急場をしのぎました。
また、在任中に夫が病に臥し、会長職と看病と両立させなければならず、心身ともに疲れ果てました。薬石効なく夫は平成九年一月末に八十三歳で永眠いたしました。
そして、五月の総会で私の任期が満了となりましたので、これを機に会長を辞任いたしました。
体調を維持しますのに苦勞しており、今更にございます。健康に十分留意し、町会発展のため微力を尽くしたいと存じております。
(聞き取り 永田)

リレーエッセイ

青少対と私

南久が原一丁目 朝倉 孝司

自営業を営む私にとって、昼間の時間帯の調整、町会、商店街、業界との付き合いなど、青少対にお世話になる事に少々不安がありました。地域に生きる私にとって鵜の木地区は生活の場です。
友人達からの青少対への強い誘いを受け、町会、商店街、業界での二十数年間のいろいろな経験・体験をしたことが青少対で生かされれば、またこの機会に他業種の方々と交流を交わし、私自身に磨きをかけていきたいと思います。青少対にお世話になることにしました。未熟な私ですが、青少対に入りこの三年間でこれまでない経験（学校・PTA・行政関係等）を積み重ねました。これからも鵜の木地区に住みよいた町になりまわすよう、少しでもお役に立ちたいと思っております。



さんぼしてみませんか

六郷用水散策 鵜の木三丁目 田中 克美

鵜の木の周辺には散歩道がたくさんあります。その中でも私が気に入っている散歩コースに六郷用水があります。丸子橋の下あたりから鵜の木の三丁目まで堀が出来ていて、どこでも人が歩ける。小さな滝や橋、そしてポンプ井戸などが散歩する人たちを楽しませてくれます。堀にはメダカや亀や鯉、冬になれば鴨がやってくる。絵のようです。また春の風の強い日には桜吹雪が幻想的な風景を見せてくれます。これからの夏の時期には堀の中で水遊びをする子どもたちのにぎやかな声が終日聞こえてきます。

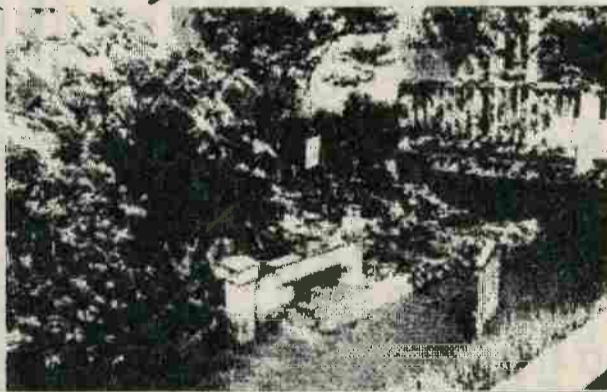
人間の生活には水は欠くこと出来ないものですが、それは別に静かな水の流れを眺めていると、不思議に心が安らいでくるのはなぜでしょうか。私の家からは手軽な往復三十分のコースなので、ダイエット（あまり効果はないのですが）も兼ね早足で歩くのが日課になってしまいました。みなさんも是非一度、散歩して見ませんか。

平成今昔 ものがたり

六郷用水

千鳥一丁目 水野 敬司

六郷用水とは、天正十八年（一五九〇）に江戸に入った徳川家康の命により、家臣の小泉次太夫（一五三九〜一六一六）によって開削された用水堀をいう。
狛江市の和泉に取水口を持つ六郷用水は、野川や玉川上水の分流、仙川用水の末流、谷沢川などの水を合わせて、世田谷領十四か村をうるおし六郷領に入ると沼部、嶺、下丸子をとおり矢口村で二流（池上・新井宿方面に流れる北堀と、蒲田・糀谷・六郷方面に流れる南堀）に分かれ三十五か村を灌漑した。



全長二三・五キロメートルにも及ぶ大工事で、慶長二年（一五九七）に測量に着手、同一四年（一六〇九）に主要水路が完成した。そして、さらに二年かかって各村の分水も竣工した。
六郷用水は、江戸南郊の後背地開発における次の太夫の業績として高く評価されている。工事を督励した家康は、慶長六年（一六〇一）に次太夫を川崎の代官に任じている。

短歌

南久が原二丁目 石山 春吉

雨の夜を咲く紫陽花が点々と
心の内にともしびを置く

梅の実の熟れてほのかな色づきが
今年も生きゐることを疼かす

つまづけば雫したたる傘の内に
突然と湧く淋しき時間

俳句

鵜の木一丁目 岩田 智恵子

稲植て 田静かなり 糸とんぼ

みどり増す 多摩の河原の 熱球技

水無月の風 花片を そちここに

子等の声 みどり濃き原 かけて行き

あめ風に 小さな青梅 ゆれおちて

みちのくの 山重なりて かすかなり

編集後記

ふるきをたずね、新しきを求める。想い出の中から新しい発想が必ず生まれます。今年もひろびろとした校庭で子ども会がきます。子ども達の元気な姿をおもいがかべながら、あそびも期待しております。さんぼみちは地域の情報紙です。皆様の投稿をお待ち致しております。

池田 進太郎